



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

No.34

2017.3.15 発行人 深海 信彦 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10 新宿スカイプラザ1302 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089 http://www.zentosho.com/

第34号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 芳生 大平 将広 木村 隆志 嶋田 伸夫 清水 儀孝 生野 正 瀬下 明 瀬下 昌彦 玉山 真敏 土子 民夫 綱取 讓一 土肥 富康 服部 暁治 深海 信彦 松本 義行 賀 真吉 吉也 持田 具宏

# 「刀剣評価鑑定士」は新年度に立ち上げ 分野別問題の作成作業も急ピッチで進む

「刀剣評価鑑定士」の資格検  
定事業は、開始に向けて作業が  
進んでいます。

昨年三月の理事会で承認され  
たこのプロジェクトは、その後  
骨子となる規約を四月に協議、  
五月に理事および監事が実行委  
員となって各自五十問の設問集  
を持ち寄り、問題形式について  
意見を述べ合いました。そして

「大刀剣市」終了後の十二月には  
設問の充実を図るべく、再度各  
自五十問、合計百問の設問集を  
提出し、約千問に及ぶ設問のた  
き台(問題集案)が作成され、  
各委員に配付されました。

その問題集の分類はおおむね  
①法令関係(銃砲刀剣類所持等  
取締法・古物営業法・特定商取  
引法・消費者契約法等)、②刀

剣の知識、③刀装具の知識、④  
甲冑・武具の知識、⑤作刀・刀  
職の知識、⑥評価・鑑定の知識  
で構成されています。

委員は年明けから始まる設問  
の協議に向け、年末・年始の休暇  
中、この二一ページにおよぶ問  
題集と睨め合ったと思います。

本事業については、刀剣界の  
関係諸団体に協力を願ってい  
ます。

よくなデザインと色彩になってい  
ます。

## 日刀保・柴原専務理事に聞く 来春の新刀剣博物館に向けて

去る二月九日、公益財団法人日  
本美術刀剣保存協会(酒井忠久会  
長。以下「日刀保」)を訪ね、柴原  
専務理事に新刀剣博物館の進捗  
状況を伺いました。

墨田区の両国公会堂跡地に誕  
生する新刀剣博物館は、今年の九  
月に引っ越しを終え、来年一月に  
開館の予定とお聞きしていますが、  
工事は現在どこまで進んでいるの  
でしょうか。

「当協会の執行部が工事の進捗  
状況の確認と、建設に携わる各社

との総合定例会議への出席も兼ね  
て毎月、建設中の新博物館へ行き  
ます。現在は外装仕上げ工事や内  
装が行われ、三階では躯体工事が  
行われています」

柴原専務理事から、平面図と完  
成予想の内観パースを見せていた  
だきました。

三階建ての外観は、立地する旧  
安田庭園が江戸時代の大名庭園と  
いう都市の中では数少ない貴重な  
文化財でもあるため、庭園風景を  
損なわず、周りの景観に溶け込む

利用する情報ラウンジがあり、  
日刀保では日本刀の製作工程や  
たらの解説コーナーとし、墨  
田区では地域情報コーナーとし  
て利用する予定です。

一階にはほかに、現在の日刀  
保の四階にある講堂と同じ用途  
の研修室があり、この研修室は  
今後、多くの講演・発表会・式



「和」を表した協会旗を前にする柴原専務理事

## 第30回通常総会は5月17日に開催

組合員の皆さまには日ごろより  
組合活動にご理解とご協力をいた  
だき、誠にありがとうございます。  
第三十回通常総会は来る五月十  
七日(水)午前十時より、東京美術倶  
楽部において開催します。何かと  
お忙しい折とは存じますが、万障  
お繰り合わせの上、ご出席くださ  
いますようお願いいたします。なお  
今回は役員改選があります。  
総会終了後には特別交換会を開  
催する予定です。

- ①開会の辞 ②出席状況報告  
③理事長挨拶 ④議長選出  
⑤議事宣言 ⑥資料確認  
⑦議案審議  
(第一号議案) 平成二十八年年度事  
業報告承認の件、平成二十八  
年度会計報告承認の件、監査報告  
(第二号議案) 平成二十九年年度事  
業計画決定の件  
(第三号議案) 平成二十九年年度収  
支予算決定の件  
(第四号議案) 役員報酬の件  
(第五号議案) 経費の賦課及び徴  
収に関する件  
(第六号議案) 平成二十九年年度借  
入金残高の最高限度に関する件  
(第七号議案) 一組員に対する  
貸付、また一組員員の為にする  
債務保証残高の最高限度に関す  
る件  
(第八号議案) 役員改選に関する件  
(第九号議案) その他  
(第十号議案) 総会終了宣言 ⑧閉会の辞

諸先輩に比べて業界でのキャ  
リアが浅い私にとっては、知ら  
なかつたこと、あやふやに覚え  
ていたこと、間違っていたこと、  
たかごを如実に知らされ、とて  
も勉強になっています。

組合は未来に向けた新しい事  
業を推進していきます。外部の  
資格コンサルタントなどに依存  
せず、組合のノウハウを主と  
して立ち上げようとしています。  
詳細はもうすぐお伝えできると  
思いますが、組合員の皆さまの  
ご理解が不可欠です。一丸とな  
って協力いただけますようお願い  
いたします。(松本義行)

また研修室向かいには、休憩が取  
れるコーナーもあります。  
二階には、刀剣審査物件の受付  
などを行う事務室や刀剣審査室、  
審査品一時保管室、収蔵庫、閲覧  
室、資料室、会議室、撮影室、応  
接室、学芸員室などの多岐にわた

三階はこれから多くの来場者で  
賑わう展示室となります。初めて  
の方にも刀剣類を楽しく鑑賞して  
いただけるような企画が提供され  
ることでしょう。  
新刀剣博物館のすぐ近くには両  
国技館や江戸東京博物館があり、  
また墨田区には開館したばかり  
の「すみだ北斎美術館」や「た  
ばこと塩の博物館」などの博物  
館・美術館が私設を含めて三十  
以上もあります。ここに日本の  
伝統文化を代表する日本刀の博  
物館が加わることに、墨田区民  
からも歓迎のメッセージが届い  
ているそうです。

高松宮妃喜久子殿下の御尊筆によ  
る「和」の書が飾ってあります。  
その書を前に柴原専務理事は「高  
松宮妃殿下より頂いた和の精神を  
もって、新博物館においても酒井  
会長の指導の下に刀剣業界が一体  
となるよう、また世界に向けて  
優れた情報発信ができるよう、公  
益財団法人としての活動に努めて  
いきたいと思っております」と話され  
ていました。来春の開館が待ち遠し  
い限りです。

なお、現在、新刀剣博物館建設に  
向けて浄財を募集しています。こ  
の寄附金は、税法上の優遇措置の  
対象となるものです。(嶋田伸夫)

刀剣・書画・骨董  
**和敬堂**  
土肥豊久・土肥富康  
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16  
TEL 0258-33-8510  
FAX 0258-33-8511  
<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商  
**やしま**  
齋藤雅稔・隆久・隆洋  
刀装小道具通信販売目録「やしま」  
年間10回位発行予定  
購読料10回 2,000円(郵便切手可)  
〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10  
TEL 042-463-5310  
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式  
**柳匠堂**  
**柳村宗寿**  
岡山市北区平和町二一八  
TEL 〇八六・二二三・二二一九  
TEL 〇八六・二二三・二二一九  
工房 岡山市北区磨屋町七二二  
TEL 〇八六・二二三・二二二九  
FAX 〇八六・二二三・二二二九

刀剣古美術  
**三峯美術店**  
**町田久雄**  
埼玉県秩父市野坂町一六六一  
西武秩父駅連絡通路町久ビル内  
TEL 〇四九四・二二三・三〇六七

美術刀剣、小道具、武具類の  
売買、加工及び御相談承ります  
**大阪刀剣会**  
**吉井唯夫**  
大阪市中央区日本橋二一七一  
TEL 〇六一六・六三二・二二二〇  
FAX 〇六一六・六四四・五四六四

### 目刀保幹部との意見交換会開く

去る一月二十五日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長、以下「目刀保」と)当組合との間で回を重ねてきた意見交換会が持たれました。

目刀保からは、昨年七月に会長に就任された酒井会長と柴原勤専務理事・志塚德行常務理事・福本富雄常務理事が出席され、組合からは深海理事長・飯田前理事長・冥賀副理事長・服部常務理事・伊波常務理事・嶋田理事・佐藤理事と小生の八名が参加しました。新刀剣博物館の進捗状況についてご説明をいただいた後、今後の刀剣界のあり方などに関して率直な意見交換がなされました。

冒頭、深海理事長が挨拶に立

### 震災義援金を阿蘇神社に寄付

一月九日、新幹線で熊本に向かい在来線に乗り換えて肥後大津に入りました。そこで地元の笹原俊和さんのお迎えを受け、被災地を視察しながら阿蘇神社に向かいました。熊本地震で大きな被害を受けた拝殿は取り除かれ、楼門は修理のために覆いが掛けられていました。参拝客は思ったよりも多く来られていました。

阿蘇治隆宮司にお目にかかり、当組合が義援金を募った経緯などをお話し、皆さまからいただいた浄財を寄付させていただきます。宮司からはその後、組合宛に丁寧なお礼状を頂戴しています。

ご承知のように阿蘇神社では終戦直後、旧国宝の来国俊(蛸丸)・長光・牡丹造短刀拵の三点が行方不明になるといふ不幸にも遭遇

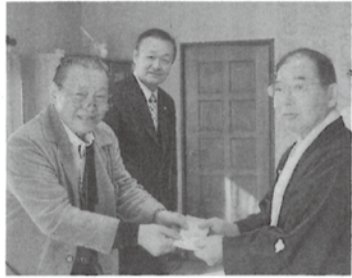
竣工し、両国に移転の準備をする大事な事業を抱えています。平成三十年一月の開館に向けて協会全体で邁進しています。オープンに際しては、開館特別記念新作名刀展及び刀剣研磨・外装技術発表会入賞作品展(仮称、会期未定)の開催を予定しています」と発言されました。

続いて柴原専務からは「昨年、日本美術刀剣保存協会のたたら製鉄事業が日本遺産に認定されましたが、これは刀剣界全体のますます発展につながっていくことだと思います」との報告がありました。われわれの新事業の一つである「刀剣評価鑑定士」検定事業にも深いご理解をいただきました。今後とも意見交換会を続けていけることを切に願います。(清水儀孝)

これを受けて酒井会長は、「本年は待ちに待った新刀剣博物館が

しました。年月は経過していますが、われわれも発見の手掛かりをつかむべく留意したいものです。阿蘇の外輪山を周回して、あらためてその雄大な姿に感銘しましたが、大小の山崩れや断層はあちこちに残っていて、被害の広さに驚かされました。最後に、最も被害が大きかったという益城町を視察しましたが、家屋は七割ほども

倒壊していました。阪神淡路大震災と比べて異なるのは、ビルやマンションが少なく、平屋や二階建ての住宅が多かったためでしょう。この度は、皆さま方の熱いお気持ちをおささかでもお届けすることができて、大変うれしく思います。これからもわれわれにできることがあれば、少しでも役に立ちたいものです。今後とも組合活動にご協力のほど、よろしくお願ひします。(猿田慎男)



「蛸丸」の古里へ義援金

全国刀剣組合、阿蘇神社に

阿蘇神社の阿蘇治隆宮司(右手前)に義援金を手交する全国刀剣商業協同組合の猿田慎男副理事長(阿蘇市)

全国の刀剣店で組織する全国刀剣商業協同組合(深海信彦理事長、200人)が9日、熊本地震で被災した阿蘇市の阿蘇神社に義援金を寄付した。義援金は全国の刀剣店から集まった108万5千円。刀剣が趣味の阿蘇ロータリークラブの笹原俊和会長から、宝刀「蛸丸」の古里でもある同神社の(東京)も同神社へ義援金15万円を贈った。(上杉彬太)

### 「登録証問題」を考える 7

#### 事例12

ある交換会で刀を買い、名義変更しようとしたところ、登録の内容が一致しないとの返事が返ってきた。刀の売り主に連絡すると、その刀はお客さまから預かったもので、お客さまの名義変更は完了しているとのこと。それでは何かの間違いであろうと、もう一度教育委員会に連絡するが、やはり内容が一致しないとの返事だった。そこで売り主に再び連絡すると、お客さまに聞いたが、間違いなく名義変更しているから調べてほしいとのこと。そして三度教育委員会に連絡し、そのことを伝えるが、答えは同じで一致しないというものだった。

名義変更できないのはどうしようもないので、売り主と相談して刀は送り返すことにした。それから数日後、売り主から連絡があり、お客さまが教育委員会に問い合わせたところ、籍があったとのこと。不思議に思いながらも、名義変更できるなら何も問題がないので、刀を送り返してもらうことになった。

刀が届いてから教育委員会に連絡すると、籍はあるとのこと。何でそんなことになったのかと質問すると、そのとき対応した人がわからなかったとのこと。納得できなかつたが、最後に念を押して「この登録証の内容が間違いないですね」と聞くと、「だから、さっきから籍があると云っているじゃないですか」との返事。怒りを通り越して、あきれ返ってしまった。

十年以上も前のことだが、ある刀をお客さまに売る際に、登録証の名義変更を申請しようとしたところ、登録証に都道府県の記載漏れがあったため、東京都教育委員会から全国照会をかける運びとなった。幸いにも関西方面に該当する物

件があり、教育委員会から登録証はそのままでよいという指示があり、無事名義変更が受理された。つい先日、そのお客さまからその刀を処分したいと相談され、買い戻した。再び売り先が見つかり、名義変更の手続きをと思ったが、該当する都道府県を失念したためあらためて東京都教育委員会に連絡し、全国照会をしてもらったところ、何と見つからないという信じがたい回答が返ってきた。何かの間違ひではないかと再度照会してもらっているが、いまだに不明である。

数年前、買い取りした刀の名義変更をしたところ、ある県の教育委員会から「台帳に存在しない」と言われた。先日、別件で、同県は登録証の台帳を紙からパソコンへ電子化したという話を聞いたので、もしやと思い担当者(紙の古い台帳を確認してもらったところ、案の定、台帳にはしっかりと該当物件があり、名義変更が受理された。当コーナーも連載して一年が経

### ご挨拶

全国美術刀剣青年会代表幹事 藤田 裕介

本年より全国美術刀剣青年会の代表幹事を務めさせていただくことになりました。これまで数々の先輩方が務められてきた大役を担うことになり、身の引き締まる思いであります。

青年会はこれまで四十年以上も続いてきた歴史ある会であり、刀剣商として一人立ちするに当たり、研鑽を積み大きく飛躍できる格好の場として存続してきました。

これまでで幾多の困難がありました。昨年には眞賀亮典前代表幹事をはじめ、これまで代々務められてきた歴代代表幹事、現役員、そしてOBの方々を中心に長年の懸案事項をすべて解消することができました。

これもひとえに刀剣界の発展と継続を願っていた先輩方のご支援がなければ果たせなかつたことでもあります。このご恩を忘れることなく、これからはまた新たな気持ちで若手一丸となって刀剣界を盛り上げていくよう精進していきたいと思っております。

現在、青年会は全国各地から現役の会員とOBの方々を含め常時二十数名が来会され、開催されています。他の会とは違って年齢もそう離れていない顔見知りメンバーで進行していくため、気後れすることなく、真剣さの中に和やかな雰囲気も含めながらお互い切磋琢磨しながら運営しています。一月には初会が行われ、この日のために来

会してくださった方々もおられたこと、いつも以上に数多く品物が集まり、非常に活気のある交流会となりました。最近新たに数名の若手刀剣商の方が入会され、これからますます活気づくことと思われまます。近頃は刀もさることながら、鐔や小柄など刀装具の良品・珍品とさまざまな小道具が数多く持ち寄られることもあって、さらに活況を呈しています。青年会は大手の会ではありませんが、限られたメンバーで構成されている分価値があり、刀剣界に対して与える影響も決して小さくないと思っています。その長所を生かしながら意義のある運営ができるよう、皆さまの力をお借りしながらこの一年、職務を全うしていきたいと思っております。

件があり、教育委員会から登録証はそのままでよいという指示があり、無事名義変更が受理された。つい先日、そのお客さまからその刀を処分したいと相談され、買い戻した。再び売り先が見つかり、名義変更の手続きをと思ったが、該当する都道府県を失念したためあらためて東京都教育委員会に連絡し、全国照会をしてもらったところ、何と見つからないという信じがたい回答が返ってきた。何かの間違ひではないかと再度照会してもらっているが、いまだに不明である。

数年前、買い取りした刀の名義変更をしたところ、ある県の教育委員会から「台帳に存在しない」と言われた。先日、別件で、同県は登録証の台帳を紙からパソコンへ電子化したという話を聞いたので、もしやと思い担当者(紙の古い台帳を確認してもらったところ、案の定、台帳にはしっかりと該当物件があり、名義変更が受理された。当コーナーも連載して一年が経

このような事例で該当物件を発見できない場合、都道府県によって対応が異なってくるが、このこと自体にまず問題があるが、今は取り上げない、よって新規登録十手数料最悪は他の事例でも取り上げているように犯罪者扱いである。台帳の電子化は時代の流れとともに必然だが、デメリットも多い。今回のようなそもそももの付け落ちのほかに、電子化の際、現場の教育委員会職員に刀剣の専門知識がないことから発生する漢字の読み間違いなどもある。

現状の仕組みでは、損を被るのは善意で名義変更を行っているわれわれである。改善を切に願う。(登録証問題研究会)

事例13

事例14

事例15

刀剣の故地を往く

東京都西多摩郡日の出町大久野

七十年後の今、「羽生事件」の真相を探る(前編)



上羽生家の薬医門と三階蔵

菅原道真を祀る伊奈澤天神社の祭礼の日、東京都の西方に位置する西多摩郡日の出町に行ってきた。

日の出町と聞いてまず思い浮かぶのは、昭和五十八年中曾根康弘総理とロナルド・レーガン米大統領の会談が開かれた日の出山荘であろう。施設は平成十八年に中曾根さんから町に寄贈され、今は記念館として公開されている。目指したのはそこではない。昭和三十年に合併するまでは大久野村と称した山村の一集落、羽生である。今や知る人もまれとなってしまったが、斯くて「羽生事件」と呼ばれ、画期となった一件の舞台となったところだ。

『刀剣鑑定手帖』には次の

ように記される。

「……ここに眉毛に火のついたような大事件が東京のお膝元で起きたのである。それは東京都下西多摩郡大久野村羽生に戦争中に疎開してあった主として東京方面の愛刀家の蔵刀百五十余口が昭和二十年もおしつまった十二月の十五日に埼玉県朝霞駐在の第一騎兵師団の将兵によって押収された事件である。聞くところによると同所に内閣の重要書類がかくしてあるという投書があった。その調査のついでに刀剣が発見された。持ってゆかれたわけである。この百五十余口の中には国宝は一本もなかったが重要美術品は二十余口もありその他もいづれも名刀揃であった。」(原文のまま)

疎開先は羽生家の土蔵であることがわかったので町に問い合わせると、文化財係の三宅さんが「その蔵はま

だ残っていますよ。確認されたいなら、関係者に連絡を取ってみましょう」と言ってくれた。その後、「羽生家」の羽生謙五さんからメールをいただいた。「それは西羽生の蔵です。私は普段は当地に住んでいませんが、祭りのときには帰るのでご案内しましょう」。そこで、この日の訪問となったのである。

青梅線拝島駅で分岐する五日市線の終点武蔵五日市駅から、西東京バスで山間を上ってゆく。バス停の名も羽生。清らかな流れの周辺には、天然記念物であるヒメザゼンソウの自生地やトウキョウサンショウウオの生息地があり、澄んだ空気が心が洗われる。この地には同姓が十数軒もあり、一族は後北条家に仕えたという武士団「大久野七騎」の一つにまでさかのぼることができる。

元禄のころ、文右衛門と惣兵衛という者が先達となり、仲間と連れだって伊勢参りに出かけた。帰途、遠江国浜松宿で急の病に苦しむ鉢鉢姿の僧侶を介抱した。その礼にと、一行は僧の寺に招かれ、卒塔婆というものの作り方を教えられた。木材加工の盛んな大久野地区の卒塔婆・棺桶の生産は今も全国で圧倒的シェアを誇るが、伊勢詣でのこの偶然がきっかけであったと伝えられている。

明治十五年、大火が襲う。「大久野焼け」と言い、民家二百十戸が焼失、羽生でも二十八戸中二十六戸が焼け落ちている。この界隈には昔ながらの土蔵が百五十棟以上現存するが、それは大火を教訓として、家産を守るために作られたものが多い。

羽生謙五さんは、十数人の歴史愛好家グループを屋敷に案内し、個々の建造物について解説しているところであった。祭りに合わせて特別に公開されたのだという。

当家は約三千三百平方メートルの広大な敷地の南側を薬医門とそれに続く板塀、通用門で限り、居室として主屋のほか、離れ座敷、主屋建設時の仮住まいとした建物、三階蔵をはじめとする六棟の土蔵、巨石を配した庭園などから成っている。

ここに壮観なのは、大久野焼けの後に建てられた主屋と黒漆喰塗りの三階蔵であろう。かつて林業や農業、

酒造業などを手広く営んでいた素封家のたたずまいである。

その後、西羽生家に案内していただいた。謙五さんが前もって話を通じておられたので、当主の羽生潤子さんは待っていてくださった。潤子さんご主人の祖父が上羽生から分かれたのが当家だが、その屋敷構えには端正で、やはり羽生一門の風格が漂っている。

事件の鍵を握る蔵は母屋の西に隣接し、屋敷林に囲まれて建っていた。桁行七間、梁間六間、下屋が設けられ、入り口は観音扉の堂々たる構え。明治四十三年の建築というが、少しの傷みも見えない。梯子段を伝って二階も見せていただいた。ここから七、八棟もあったであろう刀箆筒ごと奪われたあの日の出来事が、眼前に浮かんでくる。

いくつかの記録と取材した伝聞などを引き合わせて、羽生事件の全容をたどってみよう。

終戦から間もない十二月初旬のある日、埼玉朝霞町に駐屯中の米第八軍第一騎兵師団の兵士十数名が師団長に率いられて、突如、西羽生家にジープで乗りつけてきた。師団長は当主の柳次氏にピストルを突きつけ、「この土蔵に政府の重要文書が秘匿してあるらしいが、直ちに開扉せよ」と言う。

当時、日本人によるGHQ/SCAP(連合国軍最高司令官総司令部)や進駐部隊への密告は珍しくなかった。私利私欲からか嫉妬のためか保身か、同胞を売る例が後を絶たず、そのこと

によって厳しい追及も受けた。通訳には近くの浅野セメント羽生工場の若い社員

がついたが、なぜか妙に米軍の肩はかり持ったようだ。

そのとき、必死で断る柳次氏をかたわらで見ていた母堂のスエさんがわが子をかばうように前に出ると、「この中の品物は国からお預かりしているものなので、お渡しするわけにはまいりません」と、丁寧ながら毅然として申し出た。その気迫に氣圧されたか、師団長は「何事かつぶやきながら引き上げていった。」

事態は直ちに電報で、窓口となっていた文部省教育局文化課嘱託の本間順治氏に伝え、しかるべき対処を求めた。しかし、何の連絡も来ないまま、三日が過ぎた。

すると今度は武装兵とともに再来し、土足のまま羽生家の住居に押し入り、どうしても蔵を開けろとわめき立てる。スエさんは「何と申されようか、国からお許しがない限り、開けられません」と繰り返す。頑強な母子との押し問答に業を煮やした師団長は「開けないなら、この蔵を破壊する」とまで言い出したので、立ち会っていた五日市警察署長と大久野村長に相談し、やむなく錠前を外したのであった。

中には預かっていた内閣の公文書が大量にあり、屈強な米兵が次々と運び出し、箱の中を点検する。そのうちに刀箆筒が引き出されてきた。兵士の間で喚声が上がった。

このころまでには、GHQ当局から「美術品にして善意の一般市民の

ブック・レビュー BOOK REVIEW



先日、愛媛県松山市に行った折松山城を見学してきました。松山城と言えば(久松)松平氏の旧城であり、司馬遼太郎の『坂の上の雲』でも絶大な人気を誇る城ですが、ここを「松山」と名付け、城を作ったのは加藤嘉明なのです。

加藤嘉明と言われてもピンと来ない人もいるかもしれませんが、しかし、「賤ヶ岳七本槍」の一人と言えはわかるかもしれません。

『加藤嘉明と松山城』では、嘉明が秀吉配下の郎党として三木城、鳥取城、そして備中高松城と攻め、本能寺の変による備中高松からの大返し、山崎の合戦で明智光秀を討つところを描いている。このとき、嘉明二十

ひたすら忠勤に励み「松山」を築いた武将 『加藤嘉明と松山城』 日下部正盛

愛媛新聞サービスマスター 二二九六円(税込)

もっとも、「七本槍」は豊臣秀吉のPRみたいなもので、七人の中から数十万石の大名になったのは、加藤清正・福島正則・加藤嘉明の三人だけ。しかも、徳川幕府の豊臣系大名一掃計画の対象になって、子孫の代に領地没収や絶家となってしまう。加藤嘉明の家系だけが、二万五千石の大名として明治まで残っているのは幸運だと言わねばならないでしょう。

歳、六百五十石取りとなる。それからも柴田勝家との合戦、このとき「賤ヶ岳七本槍」として三千石。四国征伐、九州征伐、島津氏降伏と、まさに秀吉の領地拡大に貢献している。天正十四年(一五四五)嘉明は淡路に二万五千石の領地を授けられる。

同十八年、小田原征伐により天下統一が成る。その後は朝鮮出兵、つまり文禄・慶長の役となり、嘉明はまたもや奮戦し、戦功により伊予に十萬石。嘉明三十六歳。

慶長五年(一六〇〇)、関ヶ原の合戦で石田三成方の西軍と激突し、勝利。同六年、その戦功により伊予半国二十万石に加増。嘉明三十九歳。七年、松山城の築城を開始。八年、松山城に移る。

その後、寛永四年(一六二七)に会津四十万石に転封するまで二十四年、松山城を作り続け、ついに未完のまま会津に移り、四年後の寛永八年、六十九歳で亡くなっている。(持田真宏)

酒造業などを手広く営んでいた素封家のたたずまいである。

その後、西羽生家に案内していただいた。謙五さんが前もって話を通じておられたので、当主の羽生潤子さんは待っていてくださった。潤子さんご主人の祖父が上羽生から分かれたのが当家だが、その屋敷構えには端正で、やはり羽生一門の風格が漂っている。

事件の鍵を握る蔵は母屋の西に隣接し、屋敷林に囲まれて建っていた。桁行七間、梁間六間、下屋が設けられ、入り口は観音扉の堂々たる構え。明治四十三年の建築というが、少しの傷みも見えない。梯子段を伝って二階も見せていただいた。ここから七、八棟もあったであろう刀箆筒ごと奪われたあの日の出来事が、眼前に浮かんでくる。

いくつかの記録と取材した伝聞などを引き合わせて、羽生事件の全容をたどってみよう。

終戦から間もない十二月初旬のある日、埼玉朝霞町に駐屯中の米第八軍第一騎兵師団の兵士十数名が師団長に率いられて、突如、西羽生家にジープで乗りつけてきた。師団長は当主の柳次氏にピストルを突きつけ、「この土蔵に政府の重要文書が秘匿してあるらしいが、直ちに開扉せよ」と言う。

当時、日本人によるGHQ/SCAP(連合国軍最高司令官総司令部)や進駐部隊への密告は珍しくなかった。私利私欲からか嫉妬のためか保身か、同胞を売る例が後を絶たず、そのこと

によって厳しい追及も受けた。通訳には近くの浅野セメント羽生工場の若い社員

がついたが、なぜか妙に米軍の肩はかり持ったようだ。

そのとき、必死で断る柳次氏をかたわらで見ていた母堂のスエさんがわが子をかばうように前に出ると、「この中の品物は国からお預かりしているものなので、お渡しするわけにはまいりません」と、丁寧ながら毅然として申し出た。その気迫に氣圧されたか、師団長は「何事かつぶやきながら引き上げていった。」

事態は直ちに電報で、窓口となっていた文部省教育局文化課嘱託の本間順治氏に伝え、しかるべき対処を求めた。しかし、何の連絡も来ないまま、三日が過ぎた。

すると今度は武装兵とともに再来し、土足のまま羽生家の住居に押し入り、どうしても蔵を開けろとわめき立てる。スエさんは「何と申されようか、国からお許しがない限り、開けられません」と繰り返す。頑強な母子との押し問答に業を煮やした師団長は「開けないなら、この蔵を破壊する」とまで言い出したので、立ち会っていた五日市警察署長と大久野村長に相談し、やむなく錠前を外したのであった。

中には預かっていた内閣の公文書が大量にあり、屈強な米兵が次々と運び出し、箱の中を点検する。そのうちに刀箆筒が引き出されてきた。兵士の間で喚声が上がった。

このころまでには、GHQ当局から「美術品にして善意の一般市民の



羽生謙五さんと羽生潤子さん。後方の蔵が事件の舞台となった

# 若者広場

23

## 「一人一流」と口にする日のために

小川和比古(研師)

戦争を経験した祖父は、戦地からの帰途、帯刀を海に捨て、孫たちには蔵の刀も滅多に見せてはくれませんでした。子供のころに一度だけ、ほんのひと時だけ見せてもらった刀は、何だかとても神秘的に感じたのを覚えています。

時が流れ、祖父が亡くなる少し前、蔵の整理の際、およそ二十年前ぶりに見た田舎の刀は、どれも皆ひどく錆びていました。それが残念でたまらなかつたものの、初めて手にした際の衝撃と衝動は、鮮烈でした。手の中に響く重み。錆の下でなお鈍く冷たく光る鉄の色。人を斬るために生まれた道具なのだという畏怖。ドラマや小説でしか知らない時代に生まれ、今なおここにある物への畏敬。

そして私は刀に魅せられた。勤めていた会社を辞め、師である三品謙次の下に入門したのは平成十七年の夏。独立までの六年、寝起きは別棟でしたが、半住み込みで食住の面倒をすべて見ていただきました。昔ながらの徒弟修業に準じながらも、三十路を事前に入門した私を慮って、師には、「五年で独立できるように教えるから、そのつもりでがんばらなさい」とおっしゃっていただいていたものの、物覚えが悪い上に、修業中にヘルニアを患い何カ月か休養を余儀なくされるなどもあり、無理を申し上げ六年居させていただいた次第です。

研師の修業のことも少し記しましょう。

入門から二カ月は仕上げ用の砥石を作る艶磨りと打粉づくりの毎日でした。それが終わると、次は道具作りです。研磨に使つ道具は、桶と仕立箱以外は、すべて師匠の使っている道具を手本に自分で作

ります。それを使いながら自分に合うように調整していくのです。道具作りを終え、秋も深まったころに、構えの修練に入りました。刀の研ぎは、錆を取り、形を整え、砥石目を細かくする下地研ぎと、見た目を美しく化粧する仕上げ研ぎとに、大まかに工程を分けることができます。下地研ぎは中世から伝わる独特な格好で行うのですが、私たちはその姿勢の構えを構えと呼んでいます。

その構えに慣れるために、内曇砥という非常に目の細かい砥石を使って、朝から晩までひたすら研ぎの練習をします。内曇の工程は真冬でも汗をかきほどの重労働だということを書いておけば、構えの習得の大変さも想像いただけますでしょうか。

構えが大体定まってきたら、いよいよ全行程の研磨を教わりました。刀の保存と継承に研磨は必要不可欠なものです。研磨は刀剣を少なからず摩耗させてしまします。そのために古い刀で無用に練習することは避け、師が故天田昭次刀匠と故古川清行刀匠から打ち下ろしの現代刀を何振かお借りし

てくださっていました。その刀を何度か研ぎ返して、まずは研磨の全行程を学びました。

師の話では、昔は修業の大半は下地研ぎで、師匠は仕上げのことはあまり弟子たちには教えないものだったそうです。下地を専門に手掛ける研師もいたようです。

しかし、今は時代が異なる。一人の研師が下地から仕上げまできちんとなし、お客さんを自らつかんでいかなければならない。だから、限られた年数で一通りの研ぎをまとめ上げられるようになりなさいと、最初の研ぎから、仕上げまでの概略を教えました。

師からいただいたものは研磨の基礎技術だけではありませんでした。研師の端くれとして、多くの刀職・刀剣商の方々とお付き合いさせていたのですが、師匠が知己を紹介してくださったほか、「おれたち世代にしがらみがあったとしても、小川君は自分の交友関係を築きなさい」と、修業中から勉強会をはじめ多様な場に出ることを許してくださったおかげで、人の輪を広げることができました。

未熟なまま独立していつの間にも五年がたちましたが、今日も研ぎを続けていられるのは、時に支え、時に見守

てくださる多くの方々のおかげであることを痛感しています。そして刀と向き合う度、研ぎ方に迷い、日々非才に嫌気が差し、仕上げては不安のこの仕事ですが、お客さまに仕上がり喜んでいただけたときの嬉しさは、やはり、何物にも代えられそうにありません。

「研師は、一人一流」  
独立の饞に師からいただいた言葉。私のただ一つの座右の銘。

今はおこがましく、とてもじゃないけれども、いつの日か、自ら口にできたなら、とも思う。初めて手にした刀に勝るとも劣らぬ重みを伴って。

昭和五十一年、秋田県生まれ。公益財団法人日本刀文化振興協会主催新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会において銀賞一回、銅賞五回受賞。〒275-0014 千葉県習志野市鷺沼三五一九 ☎0474-097340

### NEWS & TOPICS

## 銀座泰文堂が移転オープン

新店舗と川島社長



銀座泰文堂(川島貴敏社長)が二月一日、並木通りの銀座四丁目から六丁目に移転オープンしました。周りにブランドショップが立ち並ぶ中、「刀」の看板と二階入り口への広い階段がありますので、すぐにわかります。

「銀座日本刀ミュージアム泰文堂」と名前も新たにしました店舗は、ドアを入ると五十坪の広々とした空間に効果的な照明が施され、刀剣・刀装具がゆとりを持って陳列



されています。その雰囲気は文字通り博物館のようです。

「コンセプトはミュージアム。一般の人が入りやすいように、また日本刀の普及・啓蒙に役立つように、これまでの四十年の経験を生かしました」と、川島社長が思いを語ってくれました。

■銀座日本刀ミュージアム泰文堂 104-0061 東京都中央区銀座六-7-16 岩倉ビル二階 ☎03-3289-1366 営業時間10時~18時 日曜・祝日休業 (松本義行)

## 私が出会った珍品・逸品

稲垣宏一(甲冑愛好家)

### 鉄黒漆塗雪ノ下胴

私がこの胴に出会ったのは一昨年、ある骨董店に立ち寄ったときである。店内の奥の方に胴と臙当のみが飾ってあり、ひときわ目を引いたものであった。

胴は黒漆塗五枚胴で内側は白檀塗、草摺は七間の五段下り、中でも大きな特徴は左側面「通称射向草摺」と呼ばれる部分がちょうど草摺二間分の大きさで、他に類を見ない作りであった。

これは鎌倉時代の大鎧に共通するもので、弓を引くとき左の脇下から腰にかけての攻撃を防ぐための防具となることから、実用に徹した作りとなっていることがうかがえた。

早速購入し、わが家の床の間に置いたのだが、浅学な私は甲冑一式を組むことを考え、後家合わせで兜と小具足を組み合わせて飾っていた。

後日、甲冑研究者として有名な伊澤昭二先生がわが家を来訪されたとき、床の間を一瞥するや「胴と臙当だけにしないさい。その方が胴が生きますね」とご指導を受け、すぐその場で組み直すと、先生も

「この射向草摺は珍しい」と関心を持ってくださった。

私「この胴は雪ノ下を御家流とした仙台の伊達のものでしょうか」と伺うと、「いや、伊達ならもっと質素ですね。内側を白檀塗とした作りは、大名家からの注文で作られた特別な一品であると思います。おそらく雪ノ下の影響を受けた関東の甲冑師の作だと思えます」とご教授いただいた。

伊澤先生は長年、中世の関東一帯を治めた後北条氏の旗下にあった武士団の甲冑(関東五枚胴)の研究をされてきたことから、「この胴は戦国期から桃山・江戸初期までの胴の変節を知る上でも良い資料になる」と言っていたとき、良いものに縁があったと思っっている。この胴が製作されたと思われる江戸初期は、まだ戦国生き残りの「古強者」がいた時代であることから、質実剛健の中にも大名の雅さがある一品であり、後世に大事に伝えていきたい。



刀剣・小道具・甲冑武具  
目白 飯田高遠堂  
代表取締役 飯田慶雄  
〒161-0033  
東京都新宿区下落合3-17-33  
TEL 03-3951-3312  
FAX 03-3951-3615  
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本  
松本 富夫 義行  
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1  
TEL 04-7122-1122  
FAX 04-7122-1950  
[www.touken-matsumoto.jp](http://www.touken-matsumoto.jp)

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑  
日本の伝統文化を彩る  
JAPAN SWORD CO., LTD.  
(株)日本刀剣  
伊波賢一 Ken-ichi Inami  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1  
TEL 03-3434-4321  
FAX 03-3434-4324

銀座 泰文堂  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11  
松崎煎餅ビル4階  
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏  
TEL 03-3563-2551  
FAX 03-3563-2553  
フリーダイヤル 0120-402037  
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉  
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!  
連絡先 090-8845-2222  
代表者 高吉 吉童  
東京都北区滝野川7-16-6  
TEL 03-5394-1118  
FAX 03-5394-1116  
[www.premi.co.jp](http://www.premi.co.jp)

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)

話題の 剣人 No.004

野口哲哉さん 虚構と現実の侍たち

少し前のことになると、海外TVドラマで一つの人気シリーズが完結した。J・J・エイブラムス監督の「プリンジン」で、全吉話放送された。

ドラマの設定は、世界には同時進行しているもう一つの世界があり、両方の世界は基本的に同じだが、時間軸や進化に違いがあるというものであった。例えば、片方の世界ではまだ生きていたり、科学技術に差があったりする。二つの世界はときどき干渉し合い、影響を与え合うのである。SFとアクション要素のあるミニシリーズという面もあった。

一般的には、パレルワールドと呼ばれる題材にした映画や小説は多い。もしかし、このもう一つの世界の存在を、肌で敏感に感じているのかもしれない。デジャブ(既視体験)とはそんなもう片方の世界に、何かの拍子に迷い込んでしまうことから生まれるという説もある。

ANTIQUE HUMAN



2016 12 15 (木曜) - 24 (土曜) 野口哲哉作品展 2016 南青山の丁目 キヤラリー王美

象は意外なほどのリアリティーなのである。もちろん甲冑を着けて自転車に乗ったなどという事実はない。しかし、あってもおかしくないと感じてしまう不思議な現実感がある。それはまさに、パレルワールドのもう片方の世界を覗いてしまった感覚に近い。

虚構と現実の間には、実はそれほど明確な境目がない。自分が高速で移動すればするほど、実は静止に近づいていく。その感覚の差は立ち位置の問題であり、衛星軌道から見るのか、地上から見るのかの違いである。屁理屈のように、本能では理解できている。野口氏の作品は、そんな限界ギリギリを攻めているように思える。

実際の当世具足・変わり兜には、驚くほどイカれた意匠がある、しかしイカれていると感じるのは現代の感覚であり、当時の侍たちはこれ以上ないほどの真面目さで取り組んでいたはずである。頭巾・鳥帽子形・獣魚形・鳥翼形・大立物に鹿角や水牛の脇立・後立、自己の存在アピールのためには何でもありである。野口氏の発想の原点もそこにあるらしい。

野口氏は、もともとリアリズムを求めている画家である、しかし何故それが、こどもコミカルな侍

道土から見るのか、地上から見るのかの違いである。屁理屈のように、本能では理解できている。野口氏の作品は、そんな限界ギリギリを攻めているように思える。

甲冑で自転車に乗る侍、猫に甲冑を着せて散歩させる侍、ヘッドホンで音楽に聞き入る侍、どれもディテールだけを見れば荒唐無稽に感じるが、全体像から受ける印象は意外なほどのリアリティーなのである。

代わりに日本にトナカイがいたら、変わり兜にトナカイの脇立を付ける武者も当然いたであろう。このころは、美男子系戦国歴史ゲームが刀剣女子を生み出すなど、新世代による古美術の新しい解釈と価値観が生まれつつある。野口氏の切り口も、サブカルチャーと古美術の融合による新価値観の創出であり、絶妙なコミカルさは不思議なリアリティーとなり、骨董における付加価値を、古色と虚構の伝来でシニカルに表現する。

本歌武具を扱う刀剣商にとって、茶化されているようにいさかか眉をひそめる人もいるだろうが、機会があれば写真集を手に取り、展覧会に足を運んでみてほしい。作品をじっくりと眺めれば、ふつふつと笑いがこみ上げてくるのは、請け合いたい。(大西芳生)

連絡先: キヤラリー王美 T107-0062 東京都港区南青山六六八-三 ☎03-3411-0447

イベント・レポート

東京国立博物館「春日大社―千年の至宝」



賑わった「春日大社―千年の至宝」

「春日大社―千年の至宝」を東京国立博物館で鑑賞してきました。さすがに千年の歴史を持つ春日大社で、第一章「神鹿の杜」、第二章「平安の正倉院」、第三章「春日信仰をめぐる美的世界」、第四章「奉納された武器」、第五章「神々に捧げる芸能」、第六章「春日大社の式年造替」となっている。どのパートも見ざるべき名品がたぐささんあるのだが、こは太刀・腰刀・武具関係に絞り込み、第二章と第四章のことをわずかに書きたい。

「平安の正倉院」で最もすごいのは、国宝金地螺鈿毛抜形太刀だろう。この太刀の復元模造に公益財団法人日本刀文化振興協会の先

生方と人間国宝・北村昭齋氏が取り組んでおられるのをNHKが取材し、お正月に放映したので、ご覧になった方も多いと思う。この太刀は昭和五年の第五十八次造替の際に撤下されるまで本殿に奉安されていた神宝であり、「最高級の太刀をお下げしたままであるのは、御祭神に申し訳ない」との宮司の思いにより、復元して神前にお返しする運びとなったという。本歌である金地螺鈿毛抜形太刀は、鐔・柄前・金具が金無垢であり、しかも大部分は魚子地になっている。鞘は全体に金粉を密に時絵する沃懸とし、佩表と佩裏の両面に「竹と猫と雀」が螺鈿と色ガラスによって表されている。正直、ビックリした。刀装具類の完成された形を十二

趣味の14 うんちく ヒーロー!? 私と剣道(全国制覇編) 瀬下 昌彦

幼少のころ、男の子なら一度はヒーローに憧れたのではないだろうか。ウルトラマン・仮面ライダー・スーパー戦隊・野球選手・サッカー選手など、人それぞれあると思います。

私の場合、幼稚園のころ、テレビで「六三四の剣」というアニメが放映されていました。岩手県を舞台に、少年剣士の成長をライバルたちとの関係を軸に描いたアニメです。その主人公、夏木六三四が私のヒーローでした。

そのアニメを見た瞬間「カッコいい、僕も主人公みたいになりたい」と、幼いながらも衝撃を受けたのを覚えています。ただ、それが何をやっていっているのか幼い私にはわからなかったため、母に「これ、何をやっているの?」と聞くならではの厳しい練習。手にはマ

夏木六三四に憧れた、私の剣道人生がスタートしたのです。どうしても剣道を習いたかった私は、両親に頼んで近所にあった剣道場に入りました。習い始めたばかりのころは、礼儀作法を学び、ただ竹刀を握って先生のお手本を見よう見まねでやっていただけでした。しかし、一つ一つ習っていくにつれ、次第にいろいろな技ができるようになり、小学三年生になるころには剣道大会で入賞し、高学年になると優勝さえできるようになっていきました。そして、中学校に進学するとき私の人生においてターニングポイントとなる出来事がありました。それは、学区外にある剣道が強い中学校に入学したこと。また小学生気分が抜けきれない私を待ち受けていたのは、強豪校ならではの厳しい練習。手にはマ

「平安の正倉院」で最もすごいのは、国宝金地螺鈿毛抜形太刀だろう。この太刀の復元模造に公益財団法人日本刀文化振興協会の先

生方と人間国宝・北村昭齋氏が取り組んでおられるのをNHKが取材し、お正月に放映したので、ご覧になった方も多いと思う。この太刀は昭和五年の第五十八次造替の際に撤下されるまで本殿に奉安されていた神宝であり、「最高級の太刀をお下げしたままであるのは、御祭神に申し訳ない」との宮司の思いにより、復元して神前にお返しする運びとなったという。本歌である金地螺鈿毛抜形太刀は、鐔・柄前・金具が金無垢であり、しかも大部分は魚子地になっている。鞘は全体に金粉を密に時絵する沃懸とし、佩表と佩裏の両面に「竹と猫と雀」が螺鈿と色ガラスによって表されている。正直、ビックリした。刀装具類の完成された形を十二

世紀、平安時代の職人によって鑑賞させられてしまった。そんなことを今ごろになって言っているのかと笑われるだろうが、この一点を見に来ただけでも価値がある。あとは、「奉納された武器」では、やはり国宝赤糸威大鏡、国宝沃懸地酢漿紋兵庫鎖太刀、国宝(義経)籠手等々、素晴らしい武具が並んでいるのだが、小生が「どこかの神社にある腰刀(拵)の写しなんだが」と言われて手に入れた作品の本歌が出品されていた。重要文化財の柏木菟腰刀がそれです。しかしながら、小生の写しは、鞘の肉取り、栗形・返り角など、とても本歌には及ばないものであることを痛感しました。いろいろためになり、面白い展覧会でした。(持田具宏)

あこがれだった少年剣士へ一直線 ヌがで、足はひび割れ、打ち身捻挫は日常茶飯事、怪我が絶えませんでした。一年三百六十五日、休みがあったのは元旦ぐらいだったのではないのでしょうか。朝も練習、午後も練習、そして放課後には剣道場に通い夜遅くまで練習、土日祝日や長期休暇のときは全国各地に遠征と、本当に毎日練習に励み、髪型も気合を入れるため、いつも五厘刈りでした。 そんな日々を過ごしていた中学二年生のとき、団体戦の栃木県代表として出場した全国中学校剣道大会で、都道府県代表の強者たちとの激戦を勝ち上がり、栃木県剣道史上初となる全国優勝を成し遂

代表 田中 勝憲 (株)城南堂古美術店 古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定 〒153-0051 東京都目黒区上目黒四-1-10 TEL 03-3711-0676 FAX 03-3711-0677

# 刀 剣 界

平成29年3月15日発行(隔月刊)

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

ジョーちゃん  
**健脚商売①**

東京都板橋区  
↓台東区 編



今日の俺の行き先は板橋区立郷土資料館、そしてその後、台東区御徒町。前号で取り上げた山田伶門氏のギャラリートークを聞きに行く。

詳しい内容は別コーナーに書かせてもらったが、氏の特徴でもある抑揚のない話し方というのは、逆に普通の人が声を抜いてしまつても聞き取れる。これなら、国士館大学・高校の教壇からでも生徒たちは聞き逃さないだろう。でも小学生から太刀と刀についての質問が出てタツタツ。「まあ」と「あー」が多く、何だか田中角栄みたい(俺も相当古いね)。

資料館を後にし、国道を走る俺は、一人の自転車選手を思い出していた。

一九一五年、宇都宮のロードレース、ジャパンカップを完走したエリック・シェパード選手(豪)。一周十哩を十四周で競ったこのレース、九週目まで上り坂を涼しい顔で制し、すごい奴が現れたと騒ぎに。しかし十週目に顎が上がって、十一週目では歯きり顔に。

序盤世話になったくせに、こんな顔の正直な選手は足を引っ張るのは明らかで、誰もが集団に混ぜようと思わず、最終周回では泣き顔に。しかし、八万人の観客からは、優勝を争う日本代表の新城幸一、九週目まで上り坂を涼しい顔で制し、すごい奴が現れたと騒ぎに。しかし十週目に顎が上がって、十一週目では歯きり顔に。



宇都宮を走るエリック・シェパード



今は公園となっている小山御殿跡

第18回  
**将軍家の威信を示した  
小山御殿は今**

●栃木県小山市  
瀬下明

慶長五年(一六〇〇)徳川家康率いる軍勢は会津の上杉景勝を討つべく小山に集結するが、石田三成が挙兵することを知り、家康は三成と戦うことを決め(小山評定)、関ヶ原の戦いに勝利し天下統一を成し遂げたのであった。徳川幕府三百年の歴史が始まるのである。

元和二年(一六一六)四月十七日、家康は病死する。亡骸は久能山に葬られ、翌年、日光東照宮に改葬される。

幕府は日光を聖地とし、日光社参は家康の命日法要に合わせて執り

也選手以上の拍手が惜しみなく贈られた。レースが終わってみれば俺にはブービー争いだったこの選手しか印象に残っていない。人間って正直が大切なんだな……。

なぜシェパード選手を思い出したかという、俺の回想と連想はこうだ。この国道で前号取材の帰り、K大生に抜かれた。K大自転車競技部のOBに杉江雄治組員がいる!

杉江氏といえば、含み笑い、シニカルな表現、お腹とお口が反対、そんな中でお顔だけは意外と正直だからだ。



杉江美術店にて晴生さんと

あくまで例えの話。俺が氏から買ったものを交換会に出したとする。氏の前で赤字を出したとする。「残念だね」と言いながら、顔はニコニコ。ドカッと黒字を出したとする。ひきつった顔で「良かったね」とか言われそうで、俺怖いよ。何だか時代劇の悪役みたいだ。

そんな雄二氏に「社長、顔が反対ですよ」と正しく突っ込みを入れてくれそうなのが、三代目の杉江晴生さんだ。この親子、そしてお店の雰囲気が好きだという人たちは多く、杉江美術店の客足は途絶えることがない。

もう一度言う。杉江雄治氏はただの時代劇の悪役調なのにすぎない。職場という舞台を降りれば、あの人気悪役と同じだったの良人。本当の巨悪はあなたの寝首を掻かんとスキをつかっている。

(綱取譲一)

行われた。四月十三日に江戸を出発し、三泊四日の行程が慣例であった。行列は諸大名・旗本を従え、徳川家の威信を示すものでもあった。

小山御殿は、家康七回忌に当たる元和八年、祇園城の南の一角に現在の小山町役所付近に造営され、古い資料からはその壮大な施設の様相を知ることができる。

主な建物は、将軍の詰め所である御殿をはじめとする四棟から成り、畳の総数は四百十六畳を数え、土塁を二重に築き、西側は思川の崖、三方に堀を巡らし、敷地内には十六カ所の番所を設けたきわめて堅固なものだった。東側の御成門からは、日光街道(旧国道四号)に向かって幅五間約九メートル、長さ二百五十メートルほどの真

すぐな道路が取り付けられていた。将軍家の社参は十九回に及び、中でも三代将軍家光は十回日光参詣を行っている。寛永十年(一六三三)、四代将軍家綱が行って以降は、八代将軍吉宗が再開する享保十三年(一七二八)まで、財政難のため中断された。この間、大風に見舞われて建物の一部が壊れてしまったこともあり、天和二年(一六八二)、御殿は古河藩によって解体された。

小山御殿に由来した御殿町の地名も戦後の町名変更によって消え、現在は自治会にその名を残すのみとなった。今は広場となっている御殿跡の広場の崖の下には、思川の流れが歴史の移ろいを川面に静かに映し出している。

NEWS & TOPICS  
**玉山真敏さんと宏子さんが結婚**

去る二月二十一日、京都・東山のウェスティン都ホテル京都にて玉山真敏さんと宏子さんの結婚式・結婚披露宴が盛大に執り行われました。

真敏さんは、世界でも最も美しく、歴史のある古都京都の地で勝負したいとの思いを胸に平成二十五年に独立され、刀剣に関係の深い三条・粟田口に玉山名史刀の新店舗を構えられました。

たな店舗を構えられました。慣れない地での一からのスタートは、さぞかし苦労の連続であったことと思えます。しかし持ち前の粘り強さと真面目さで、今では顧客の信用も厚く、商売を軌道に乗せました。

結婚披露宴の会場は、その店舗から目と鼻の先です。これは、刀剣にゆかりのある地に皆さんをお呼びしたい、との新郎の思いからだそうです。真敏さんは宏子さんと初めて出会ったとき、控えめでおしとやかな挙措に一瞬で心を奪われたそうです。披露宴では、準備を頑張ったというだけあって、伝統の様式を取り入れた盛大なものであり、筆者も初めて触れる異



お幸せに……

NEWS & TOPICS  
**岩本典久さんと智子さんが結婚**

去る二月六日、大阪市のホテル阪急インターナショナルにおいて岩本典久さんと智子さんの結婚披露宴が開かれました。

猿田慎彦大阪刀剣業組合組合長(当組合副理事長)の挨拶に始まり、とても大阪らしいアットホームな披露宴となり、お二人は幸せで包まれていました。

岩本刀剣店が阪急うめだ本店美術部のリニューアルの際にお店をオープンして三年になります。典久さんの父君である敏樹さんはかつて阪急百貨店美術部にあった中宮商店で営業していました。独立された後、中宮商店は閉店し、美術部に刀剣店がない状態がしばらく続いていたのですが、リニューアルの際に岩本刀剣店に声がかかり、開店に至りました。

当店はイベントも精力的に行っています。最近では「刀匠月山一門展」を開催し、盛況でした。

典久さんは、刀剣業界に入る前に一年間、バックパッカーで世界を旅しました。そのとき培った広い視



おめでとう

野とバイタリティーで刀剣業界に新風を吹き入れ、盛り上げていくてくれることでしょう。これから典久さん、智子さん、おめでとう。(土肥富康)

日本刀の  
**江州屋**  
名品・名刀を販売

店主 小暮 昇一

〒529-1131  
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-11  
TEL 0749-14212736  
携帯 090-1316217641  
http://www.goushuya-nihontou.com

**アオバ企画(株)**  
**高橋 一**

〒113-0012  
墨田区大平四一九二一三〇八  
TEL 03-3622-1111  
FAX 03-3622-1111  
メール aobak@pb8.so-net.ne.jp

刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ

今後先達たちへの恩を忘れず、業界の発展に尽くしたいと熱く語る若き刀剣商の、今後の繁栄とご幸福を祈念したいと思います。(大西芳生)

**紀伊国屋**

代表  
**松浦孝子**

〒372-10812  
群馬県伊勢崎市長取町一八三六一  
TEL 027-0267777  
FAX 027-0267878

野とバイタリティーで刀剣業界に新風を吹き入れ、盛り上げていくてくれることでしょう。これから典久さん、智子さん、おめでとう。(土肥富康)

イベント・レポート

刀匠月山一門展

旭日双光章受賞祝賀会を開催

一月十一日から十七日まで、阪急うめだ本店七階美術画廊で「刀匠月山一門展」が開催され、月山

貞利刀匠はじめ一門の十三人から急うめだ本店七階美術画廊で「刀匠月山一門展」が開催され、月山

た。会期中は貞利氏のギャラリートーク、一門刀匠の銘切り実演・販売に加え、月山一門小刀セットの入札オークションも企画され、会場を賑わせました。



勢揃いした月山一門

昨年、二十一年に一度の春日大社式年造替で「金地螺鈿毛抜形太刀」作成の刀身製作を担った貞利氏は、昨秋に旭日双光章を受章され、その叙勲記念祝賀会も含めたレセプションが、同展初日、十八時半から隣接の新阪急

ホテルにて、多くの列席者を迎え盛大に開催されました。

一門を代表して三上貞直全日本刀匠会会長、所縁ある徳川齊正徳川ミュージアム理事長、奥野信亮衆議院議員、甘利治夫奈良新聞社代表の挨拶が続ぎ、小川盛弘メトロポリタンミュージアム名誉特別顧問の乾杯で宴が始まりました。敵かな琴演奏や一門各刀匠の紹介、月山鍛錬道場での焼入れ体験を特賞にした福引抽選会などもあって盛り上がり、NHK「春日大社」よみがえる黄金の太刀」番組監督の川良浩和氏と、阪急うめだ本店美術部長の挨拶



刀匠月山一門展のエントランス

工業生産品)は、さすがに展示にはオミットされていた。

しかし、練革本小札黒絨織丸胴具足は、資料性も格調も高く、本展示の目玉とも思える。少し高い位置に飾られた鉄碁石頭伊予札段二枚胴具足も個性的で、江戸時代中後期という時代判別より古く見てよいだろう。工芸性高くリメイクされた古頭形と思われる奇毛引織のしころを持つ兜は、一見するべきものがあった。

後続の愛好家や研究者によって伝来を手繰り寄せられたつつある資料も展示され、関谷氏も草葉の陰で微笑んでおられよう。

この日のギャラリートークは一般社団法人日本甲冑武具研究保存会の山田伶門氏。交通の便の悪さをものともせず集まった多くの人たちに、わかりやすい説明をしていた。

前述の金小札絨織二枚胴具足を氏は進んで解説し「誰からも見向かれなくなった部類に商品性を

持たせ、ニーズを模索した。古いものは大切にすべき」という氏の言葉は甲冑を商うものとして

抄・中締めで終宴となりました。出品の一門は次の通り(敬称略)。

月山貞利・三上貞直・二十五代藤原兼房・龍神太郎源貞茂・川原貞慎・田中貞豊・原田貞綱・田公貞充・二十六代藤原兼房・月山貞伸・川瀬貞真・濱川貞純・能瀬貞旭 (伊波賢一)

備前長船刀剣博物館「大相撲と日本刀」

十六代立行司木村庄之助の軍配などの相撲道具である。

備前長船刀剣博物館の植野学芸員によると、普段の刀剣展示では最近ブームの刀剣女子が多いそうだが、今回は初めて日本刀を見るような相撲ファンが世代を問わずたくさん訪れており、また実際に土俵際やテレビなどで目にする太刀の切身が本当の刀であることに驚く方も多く、反響は大きいようだ。

岡山県の備前長船刀剣博物館にて開催されている特別展「大相撲と日本刀」に行ってきました。

約十年前にも長船刀剣博物館で開催されたことのある日本の伝統文化を融合した特別展で、今まさに十九年ぶりの日本人横綱誕生で沸いている大相撲界を予測したかのような、おあつらえ向きの展示内容である。

老若男女で楽しめる相撲文化と刀剣文化との関係は深く、五穀豊穡・天下泰平を祈る精神は全く同じであり、その具現化する品もどこか共通点があがえ、刀剣愛好家でも楽しめる展示と言えよう。

第七代横綱稲妻雷五郎の固山宗次の太刀や、昭和の大スター、第四十八代横綱大鵬幸喜の備前長船

師光の優雅な太刀もある。また、当時の最高技術を駆使して製作された太刀柄も素晴らしい。刀剣類もさることながら、目を引くのはやはり絢爛豪華な刺繍を施した、三つ揃いの化粧まわしや、白鵬関・鶴竜関の白く立派な横綱、三



「大相撲と日本刀」の展示会場

今回の展示では、相撲博物館が所蔵している品だけではなく、各相撲部屋が所持している個人の品なども展示してあるため、非常に貴重であり、親方たちの協力がなければ実現できなかったと、感謝の言葉も述べていた。

日本刀と大相撲の密接な関係を実感するとともに、伝統文化を保存継承する関係者や愛好家の深い愛情があつて成り立っている点も共感でき、より一層大相撲が大好きになった。(玉山真敏)

故コレクターの意気に思いを致す

平成二十四年の特別展「大名とその家臣団の備え」、あのとときと同じように甲冑が板橋の春の訪れを告げている。

今年の特別展「武具繚乱」は関谷弘道氏(平成二十五年に六十八



山田氏のギャラリートークに聴き入る

歳で没す)がコレクションを寄贈したもので、あのとときと違い重要文化財や息を飲む名品などはない。その展示品から判断するに、遅咲きの愛好家として晩成を期する前にその生涯を閉じてしまったようで、今その余生を送っていたらどんな資料を集めていただろうかと発想するはかりだ。

昔言からだが、一階奥角のゴールデンコーナーと思われる場所に飾られた金小札絨織二枚胴具足などは、刀剣の交換会会場でもときどき見る初心者愛好家ばかりがちな迷品(?)であり、これを展示するのは故人も望んではいない。

また刀剣類にも?が付くものがあり、郷土資料館がガラス越しに見せるものを盲目的に良いものと思ってしまう人々のためにハッキリ断じるキャプションがある方が望ましい。図録には載せてしまっている朱色の桶側二枚胴(現代の

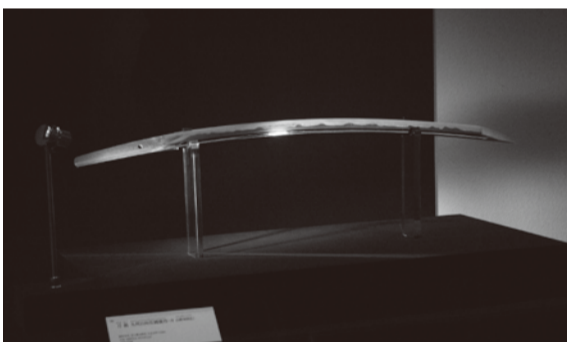
工業生産品)は、さすがに展示にはオミットされていた。

しかし、練革本小札黒絨織丸胴具足は、資料性も格調も高く、本展示の目玉とも思える。少し高い位置に飾られた鉄碁石頭伊予札段二枚胴具足も個性的で、江戸時代中後期という時代判別より古く見てよいだろう。工芸性高くリメイクされた古頭形と思われる奇毛引織のしころを持つ兜は、一見するべきものがあった。

後続の愛好家や研究者によって伝来を手繰り寄せられたつつある資料も展示され、関谷氏も草葉の陰で微笑んでおられよう。

この日のギャラリートークは一般社団法人日本甲冑武具研究保存会の山田伶門氏。交通の便の悪さをものともせず集まった多くの人たちに、わかりやすい説明をしていた。

前述の金小札絨織二枚胴具足を氏は進んで解説し「誰からも見向かれなくなった部類に商品性を



山姥切国広

「山姥切国広は天正十八年(一五九〇)、足利領主長尾頼長の依頼により下野国足利の地で堀川国広が作刀しました。

天正十四年、頼長が北条氏康より拝領した備前長義作の本歌「本作長義」(重要文化財、徳川美術館蔵)を同十八年二月、国広は頼長の命により写し「山姥切国広」を鍛刀し、五月三日に本歌「本作長義」(磨上げも行ったとも)に詳細な切付銘を切っています。堀川国広作の白眉とされ、重要文化財に指定されています。

本作の展示は平成九年の東京国立博物館以来二十年ぶりとなり、山姥切国広と同年に足利学校で打たれた「布袋国広」(重要美術品、足利市民文化財団蔵)とともに、

四二七年の時を超え、初めてゆかりの地である足利で同時展示されることになったのです。

本展ではほかに天正十二、三年ごろの作とある「国広」二字銘の短刀をはじめ、長尾家の家紋である三ツ巴九曜紋をあしらった紺糸威餓鬼胴具足、足利城の古地図、貴重な古文書なども多数展示されています。

山姥切国広は若い女性を中心に刀剣ブームを巻き起こしている人気オンラインゲーム「刀剣乱舞ONLINE」にも登場する刀として話題です。

足利市と「刀剣乱舞ONLINE」のコラボレーション企画も実施され、山姥切国広の描きおろしイラストが足利市立美術館に、等身大パネルが足利市立美術館・史跡足利学校・長林寺の三カ所に設置さ

れます。スタンプリーでは堀川国広ゆかりの地や足利の名所、足利市立美術館・史跡足利学校・阿寺・足利織姫神社・長林寺の五カ所を回るができます。

初日の三月四日には開館前に約三五〇人が並び、入場者は一二六六人と大盛況でした。待ち時間は最大四時間となり、午後三時半までには並んだ人に入場制限をする異例の対応が取られました。

山姥切国広の里帰りによって、足利の街全体が大きな盛り上がりを見せているようです。

(実質亮典)

「今、超克のとき。いざ、足利。山姥切国広展」は三月四日(日)〜四月二日(日)開催。足利市立美術館11-302 6-0814 栃木県足利市通二一四七 0284-433333。会期中は三月二十一日(火)のみ休館

催事情報

■公益財団法人日本刀文化振興協会

〒115-0044 東京都北区赤羽南2-4-7 鷹匠ハイツ301号 ☎03-5249-4440  
http://nbsk-jp.main.jp/wp/

第8回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」

公益財団法人日本刀文化振興協会(刀文協)では平成29年度の公益目的事業として、長野県の坂城町並びに坂城町鉄の展示館との共催により、第8回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」を開催します。本展は大臣賞等をもって優れた作品を顕彰するコンクールと併せて、その成果を広く公開するものです。なお今回も、作刀・刀身彫刻/研磨/刀装の3部門のほかに、特別

公開部門として、“Sword Oshigata Art”部門を設けます。作品の受付は4月13日(木)~15日(土)の3日間、午前10時~午後4時、下記会場にて。詳細はホームページで。会場:坂城町鉄の展示館(〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6313-2) 会期:5月27日(土)~8月27日(日) 授賞式・懇親会は5月27日(土)に開催

■大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728  
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

渡来人いずこより

日本列島と朝鮮半島との間の交流は古くからあり、朝鮮半島の文化は日本文化の形成にも多くの影響を与えました。その文化を伝える役目を果たしたのは「渡来人」と呼ばれる人々で、その足跡は朝鮮半島系の文物からたどることができます。ただ、渡来人の出身地である朝鮮半島にはそれぞれの地域に個性豊かな文化があり、特に三国時代(4~7世紀)には高句麗や新羅、百濟、加耶といった国々が分かれて存在するため、それらを一括するにはできません。よってその文物が「いずこより」もたらされたのかということを明確にすることにより、渡来文化の具体像、さらには細かな歴史的背景も見えてきます。



銀鍍貼金環頭大刀(重要文化財)

本展では、近畿地方やその周辺地域で出土した朝鮮半島に関する資料で展示を構成しながら、渡来人の「出身地」にスポットを当てて、考古学の最新成果を生かした展示を通じて、当時の具体的な交流像をビジュアルに描きます。展示では中央を介さないような交流など、近代国家の枠組みでは想像できない多様な交流の歴史が存在することを伝え、あらためて両地域の文化への関心を高め、友好を深めることにつなげたいと思います。

会期:4月26日(水)~6月12日(月)。火曜休館。ただし5月2日(火)は開館

重要文化財指定記念「なにわの町人天文学者・間重富」

間重富(1756-1816)は、大坂で家業の質屋を営むかわら、江戸幕府の御用測量を務めた町人天文学者として知られています。大阪歴史博物館では、間家の後継に当たる羽間平安氏から間重富に関する資料(羽間文庫)の寄贈を受け、コレクションの維持・公開に努めてきました。この資料群の一部については、天文・暦学史上の価値から大阪府有形文化財の指定を受けていましたが、平成28年に「間重富関係資料」(約740点、江戸時代後期、大阪市立中央図書館所蔵分を含む)として、新たに国の重要文化財に指定されました。



屈折式望遠鏡

本展では、指定を受けた資料を中心に、間重富と間家の足跡をたどる品々約30点を公開します。この機会に、なにわの町人学者の活躍を通して、江戸時代の大坂で培われた高度な科学技術・知識に触れていただければ幸いです。

会期:4月26日(水)~6月19日(月)。火曜休館。ただし5月2日(火)は開館

■京都文化博物館

〒604-8183 京都市中京区三条高倉 ☎075-222-0888  
http://www.bunpaku.or.jp/exhi\_special/now/

戦国時代展 —A CENTURY of DREAMS—

日本における戦国時代は、相次ぐ戦乱により秩序が大きく乱れた時代だとイメージされてきました。ところが近年では、この時代は、各地で対立・戦乱が起きながらも、列島規模で文化的・経済的な実りをもたらした時代だと考えられるようになってきました。室町幕府の政治権力が衰え、上杉謙信・武田信玄・毛利元就・織田信長など有力大名たちは領国の経営に力を入れるようになり、その結果、京都で成熟した文化が列島各地へもたらされ、新たな地域文化として再生産されたのでした。

本展では、合戦の様子や武将の姿を伝える歴史資料、列島の各地で生成された貴重な美術工芸品を一堂に展示し、多様な広がりを見せたこの時代とたくましく生きた人々の姿に迫ります。会期:2月25日(土)~4月16日(日)。月曜休館。ただし3月20日は開館、21日(火)は休館

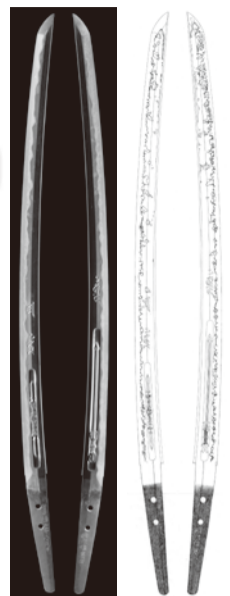


■岐阜県博物館

〒501-3941 岐阜県関市小屋名1989(岐阜県百年公園内) ☎0575-28-3111  
http://www.gifu-kenpaku.jp/guide/

日本刀押形展—幽玄美へのいざない

日本美術刀剣保存協会岐阜県支部(近藤邦治支部長)は刀剣文化の研究を行っている団体で、平成29年度に創立60周年を迎えます。これを記念して日本で初の「日本刀押形展」を岐阜県博物館・マイミュージアムギャラリーにて開催します。押形は刀剣類の特徴を紙に写し取ったもので、写真では捉えきれない刃中の景色や変化が一目でわかります。押形は本来、刀剣研究を目的とした記録資料ですが、本展ではこれを鑑賞用に構成し、刀剣の魅力を伝える新たな表現手法としています。今回は、刀剣押形約40点とその対象となった刀剣十数振のほか、最古の刀剣押形『往昔抄』(復刻)などの関連資料を展示します。会期:4月22日(土)~6月18日(日)



■東京美術倶楽部

〒105-0004 東京都港区新橋6-19-15 ☎03-3432-0191  
http://www.toobi.co.jp/

公開美術講座〈日本刀〉

東京美術倶楽部では「日本の美術を学び、感じる」をコンセプトに、専門家を講師に迎え、講演内容に即した美術品を展覧するなど、充実した「公開美術講座」を連続開催しているが、第17講座に日本刀を取り上げ、下記の通り開催する。5月20日(土)15:00~16:30 日本刀の

時代的変遷 6月24日(土)15:00~16:30 日本刀の五箇伝 講師は佐野美術館館長・渡邊妙子氏。受講料は6,000円(2回)。詳細をホームページで確認の上、申し込みはFAX(03-3431-7606)で。

■東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 ☎03-3822-1111  
http://www.tnm.jp/

特別展「茶の湯」

12世紀ごろ、中国で学んだ禅僧によってもたらされた宋時代の新しい喫茶法は、次第に禅宗寺院や武家など、日本の高貴な人々の間に浸透していきました。彼らは中国の美術品である「唐物」を用いて茶を喫すること、また室内を飾ることでステータスを示します。その後、16世紀(安土桃山時代)になると、唐物に加えて、日常に使われているものの中から自分の好みに合った道具を取り合わせる「侘茶」が干利休により大成され、茶の湯は天下人から大名、町衆へより広く普及していきました。このように、日本において茶を喫するという行為は長い年月をかけて発展し、固有の文化にまで高められてきたのです。

本展覧会は、主に室町時代から近代まで、「茶の湯」の美術の変遷を大規模に展覧するものです。「茶の湯」をテーマにこれほどの名品が一堂に会する展覧会は、昭和55年に東京国立博物館で開催された「茶の美術」展以来、実に37年ぶりとなります。

各時代を象徴する名品を通じて、それらに寄り添った人々の心の軌跡、そして次代に伝えるべき日本の美の粋をご覧ください。会期:4月11日(火)~6月4日(日)



■泉屋博古館

〒106-0032 東京都港区六本木1-5-1 ☎03-5777-8600  
https://www.sen-oku.or.jp/tokyo/

黒川古文化研究所+泉屋博古館連携企画特別展「名刀礼賛—もののふ達の美学」

昭和25年、兵庫県に設立された黒川古文化研究所。国宝「短刀 無銘(名物伏見貞宗)」や重要文化財「太刀 銘備前国長船住景光」など、平安時代から江戸時代までの刀剣の中から約30口の名刀を紹介。所蔵の甲

冑や刀装具、書画なども併せて展示し、黒川古文化研究所の名品が一堂に会する貴重な機会となります。会期:6月1日(木)~8月4日(金)。月曜休館。ただし7月17日は開館、18日(火)は休館

組合こよみ (平成29年1~2月)

- 1月8日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第33号編集委員会(校正)、「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・木村監事・大西芳生氏・木村隆志氏・土子民氏
- 11日 銀座長州屋にて『刀剣界』第33号編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・綱取理事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加47名、出来高11,638,200円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事懇談会を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大平監事・木村監事
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第34号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・吉井理事・木村監事・大西氏・大平將広氏・土子氏
- 20日 東京美術倶楽部にて「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・木村監事・土子氏
- 25日 公益財団法人日本美術刀剣保存協会との意見交換会を開催。出席者、日刀保酒井会長・柴原専務理事・志塚常務理事・福本常務理事・組合深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・飯田理事・佐藤理事・嶋田理事
- 2月1日 銀座刀剣倶楽部会場で「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・木村監事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加53名、出来高12,320,600円
- 17日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第34号編集委員会(校正)、「刀剣評価鑑定士」実行委員会を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・大西氏・土肥康康氏・土子氏